

わが国における AIDS への対応

—もっと行動を—

白 阪 琢 磨

(キーワード: HIV 感染症, AIDS, 治療, 予防)

NATIONAL RESPONSES TO AIDS IN JAPAN: MORE ACTION NEEDED

Takuma SHIRASAKA

(Key Words: HIV infection, AIDS, treatment, prevention)

表題は昨年(2004年)の UNAIDS (The Joint United Nations Programme on HIV/AIDS, 国連合同エイズ計画)の報告書のタイトルを一部改変したものである¹⁾。今回、医療の編集委員会は HIV 感染症/AIDS の特集を組んだ。エイズは国立医療学会が取り組む19の政策医療の1つであり、12月1日の世界エイズデーに合わせた特集である。UNAIDS は毎年エイズデーに世界のエイズの疫学データを報告している。2005年末現在、世界で4,030万人(成人が3,800万人、15歳以下が230万人、女性が1,750万人)が HIV に感染し、2005年1年間で490万人が新規に感染し、310万人が AIDS で死亡したと推定されている²⁾。同報告書の中で日本については「In Japan, the number of reported annual HIV cases has more than doubled since 1994-1995, and reached 780 in 2004—the highest number to date. Much of this trend is due to increasing infections among men who have sex with men. Sex between men accounted for 60% of new HIV cases in 2004. About one third of the total cases in that year were among people younger than 30 years, which seems to confirm earlier reports of an increase in sexual activity and unsafe sex among young men and women. (日本においては HIV 感染者の年間報告数は1994年-1995年の頃の2倍以上となり、2004年は780件と過去最高の報告数となった。この傾向のほとんどは、男性同性間性行為者での感染増加による。男性間性行為が2004年の新規 HIV 感染者の60

%を占めた。同年の総報告数のおよそ3分の1が30歳未満の人々であり、このことは若い男女間で性行動が活発化し安全でない性行為が行われているという以前の報告を確認する結果となっているように見える。著者意識)」と記載されている。今世紀、アフリカに次いでアジアにおけるエイズの感染爆発が予測されており、感染爆発の波は必ずわが国にも押し寄せて来るだろうというのがわが国のエイズの専門家の多くの予測である。実際、わが国の HIV 感染症/AIDS の動向によれば、HIV 感染者、AIDS 発病者の年間新規報告者数はいずれも増加傾向にある。橋本修二先生は「今後の一般集団における HIV 感染の爆発的流行会社が危惧され」、HIV 感染報告の補足率を考慮しつつ、「HIV/AIDS 報告数の動向観察をより精密に実施」が重要と指摘されている³⁾。HIV の感染経路は空気感染でも飛沫感染でもない。HIV は性行為を中心とした人間の行動によって拡がってゆく。日本を除く多くの先進諸国ではエイズ発病者の年間新規発生数が減少に転じている。これは抗 HIV 療法によって HIV 感染症の進行を阻止し AIDS 発病を遅延できるようになったためである。AIDS 発病は経済状況による南北問題の1つにも挙げることができるが、ブラジル政府は治療が必要な感染者すべてに抗 HIV 剤を供給することによってエイズ発病者の年間新規患者数の減少に成功した¹⁾。母親が HIV 陽性と出産前に判明すれば母子感染も高率に予防できる時代となったのも抗 HIV 療法の進歩のお陰である。さて、性行為による HIV の感染をど

国立病院機構大阪医療センター HIV/AIDS 先端医療開発センター
別刷請求先: 白阪琢磨 国立病院機構 大阪医療センター
〒540-0006 大阪市中央区法円坂 2-1-14
(平成17年11月25日受付)
(平成17年12月22日受理)

う防ぐかは各国にとって深刻な問題である。今年の報告書では、アフリカのケニアやジンバブエ、カリブ海沿岸の諸国で、ここ数年間、HIV 罹患率の減少傾向が指摘された⁴⁾。ケニアでは1990年代後半に10%であった成人での感染率が2003年には7%に低下し、ジンバブエでは妊婦での HIV 感染率が2003年に26%であったものが、2004年には21%に低下した。これらの国では、国を挙げて HIV 感染防止の施策を実行し、その結果、コンドーム使用の増加、初交年齢の遅延、パートナー数の減少などという感染予防のための行動変容を起こしたためとされている⁴⁾。ここで読者に考えて頂きたい。わが国は海外に比べ HIV 感染者数は比較的少数に留まっており、しかも HIV 感染者に抗 HIV 療法が経済的に可能であるのに、なぜ、わが国でエイズ発病者数が増え続けているのだろうか？さらに、HIV 感染の拡がりを阻止するために、わが国での HIV 感染の予防の取り組みがどうあるべきであろうか？本特集号では、エイズ予防指針の見直し委員会の委員長も務められた木村哲先生が巻頭言「わが国の HIV 感染症対策の課題」で貴重な指摘と提言をされている⁵⁾。

わが国の HIV 感染症/AIDS 医療は、これまで薬害 HIV 訴訟の和解に基づく恒久対策として実践されてきた面がある。HIV 感染症/AIDS の医療環境の改善は医師のみならず看護職の貢献も大きい⁶⁾。世界での HIV 感染症の治療の進歩と相俟って、わが国での治療状況も目覚ましく良くなり、HIV 感染症は慢性疾患と捉えることができるようになった。例えば呼吸器病変についてはいくつかの課題はまだあるが概ね標準的治療が確立しつつあるし⁷⁾、MRI に代表される放射線技術の進歩は HIV 感染症/AIDS での中枢神経病変の診断と解析に大きな進展をもたらした⁸⁾。ウイルス量の測定が可能になるなどの臨床検査技術の進歩も HIV 診療の発展に大きく貢献した⁹⁾。しかし、いまだにいくつかの課題が HIV 感染症/AIDS 医療にも残されている。例えば、血液製剤で感染した血友病患者は抗 HIV 療法の実施で CD4 値が年々上昇を続けてきたが、調査対象者の QOL は低下傾向にあると報告され¹⁰⁾、とくに合併する C 型肝炎が予後を悪化させている。最近、C 型肝炎治療に大きな進歩があった。HIV と HCV 重複感染者治療の現状につき小池和彦先生に概説頂いた¹¹⁾。臨床の現場では、抗 HIV 療法の副作用に悩まされることが多い。岡慎一先生らは薬剤血中濃度とヒト肝酵素の SNPs とのある相関を発見し、事前の遺伝子型検査から適した投与量を決定できるテーラーメイド医療の可能性を示唆している¹²⁾。これらは HIV 感染症患者の予後改善にいつそう

大きく寄与すると期待される。

しかし、感染を防ぐには医療の進歩だけではなく社会的取り組みが重要である。ブラジルでの AIDS 対策を先に述べたが、必要な感染者すべてに抗 HIV 薬を提供する政府の方針は AIDS 新規発病者数を減少させた。逆説的に聞こえるかも知れないが、このブラジル政府の施策は HIV 感染者の入院医療費を約22億ドルむしろ節減し、死亡率を50%低下させ、罹病率を60%–80%低下、HIV 感染者の入院を70%減少させたと見積もっている。さらに必要な患者すべてに抗 HIV 薬を提供する施策は抗体検査の受検率も上げたという。

わが国の HIV 感染症/AIDS 対策は今後どうあるべきか、本誌が読者の議論の引き金となれば幸いである。

最後に、ご多忙中にも拘わらず快く執筆を承諾頂いた先生方、とくに、国立病院機構以外の所属の先生方には、この場を借りて深く感謝の意を表します。

文 献

- 1) UNAIDS. 2004 report on the global HIV/AIDS epidemic : 4th global report.
- 2) UNAIDS. AIDS epidemic update : December 2005
- 3) 橋本修二：わが国の HIV 感染症/AIDS の動向. 医療 59 : 641-646, 2005
- 4) UNAIDS Press office HIV infection rates decreasing in several countries but global number of people living with HIV continues to rise Geneva, 21 November 2005
- 5) 木村 哲：わが国の HIV 感染症対策の課題. 医療 59 : 637-640, 2005
- 6) 島田 恵：HIV/AIDS 患者の療養継続支援と HIV/AIDS コーディネーターナース. 医療 59 : 647-651, 2005
- 7) 小河原光正：HIV 感染症の呼吸器病変. 医療 59 : 663-668, 2005
- 8) 酒井美緒：HIV 感染症の中枢神経病変の画像. 医療 59 : 669-675, 2005
- 9) 土志田健, 山下幸作：HIV 感染症の検査. 医療 59 : 652-657, 2005
- 10) エイズ発症予防に資するための血液製剤による HIV 感染者の調査研究 平成15年度 報告書 (調査研究班長 白阪琢磨)
- 11) 小池和彦：HIV-1 感染症と C 型肝炎. 医療 59 : 658-662, 2005
- 12) 岡 慎一：HIV 感染症のテーラーメイド治療. 医療 59 : 676-679, 2005.